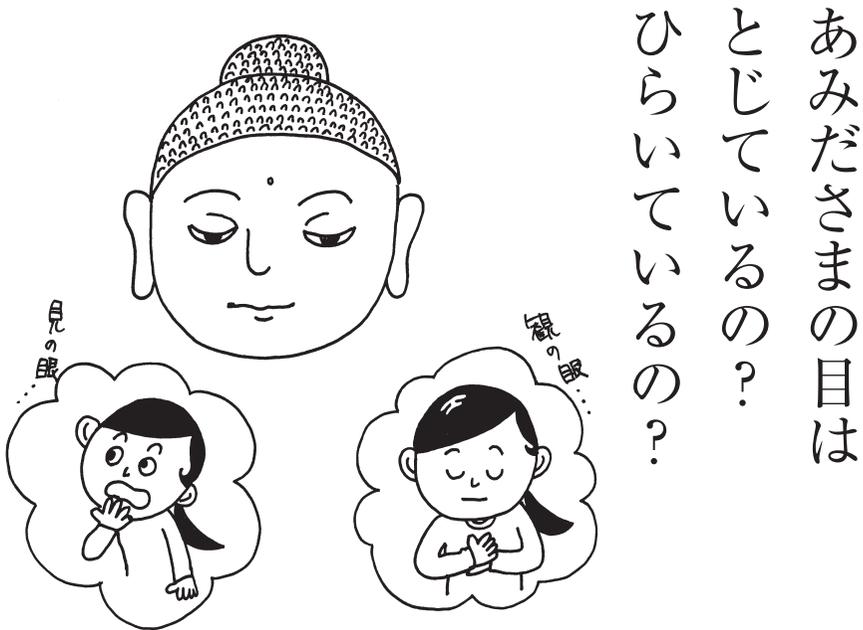


# なぜ？なぜ？先生

～みんなの不思議～



あみださまの目をよく見てみると、目を見開いてもなく閉じてもない、半眼はんがんという目をしておられます。これは観見二眼かんけん に がんという目をされているのです。

私たちの目は外に向かって見開いています。だからこの目を通して、いろんなものを見ることができます。この目を仏教では「見の眼」といいます。

それに対して、もう一つの目は「観の眼」と呼ばれています。本願寺第8代宗しゅう主蓮如上人しゆれんによの法語や訓戒を収録した『蓮如上人御一代記聞書ごいちだい き ききがき』には「人のわろきことはよくよくみゆるなり。わが身のわろきことはおぼえざるものなり」（『浄土真宗聖典 註釈版』1293頁）と記されています。

私たちは「見の眼」を通して人の悪いことなどがよく見えます。でも、自分の悪いことはなかなか自覚できません。それは内側を見る眼（観の眼）を大事にしていないからだと思います。この眼は自分の眼ではなく、仏さまのものさしです。自分のものさしで自分をはかっても、どこまでも都合の良い自分しか見えてきません。そこに仏さまのものさしを通して、自分を振り返ることの大事さを伝えているのが「観の眼」です。

外を見る「見の眼」ばかりで生きている私たちに、それと同じくらい内側を見る「観の眼」の大切さを、あみださまの目は教えてくださっています。